

システム開発事例共有システムの開発

3P-4

†渡辺 正、†降旗 由香理、†宮崎 肇之、‡工藤 裕

(株)日立製作所 †公共情報事業部 (株)日立製作所 ‡システム開発研究所

1. はじめに

システム開発のノウハウや知識は、多くのシステム開発を経験した人や、特に調査・勉強をした人に限られる。このような個人のもつ知識や経験を共有することができれば、組織全体の生産性、設計品質の向上に大きく寄与できる。そのため、情報を共有し、再利用できるためのシステムが必要になる。この類のシステムでは、情報をどのように収集するかが最も難しい問題である。我々は、情報源としてレビュー議事録に着目し、この情報を有効活用できるシステムの構築を行なった。

2. システム概要

レビュー議事録は、決定内容と結論に到った理由が記録されるものであり、設計の本質と言える情報が在る。しかし、現在は、プロジェクトや部署、個人単位に保管されているため、他プロジェクトからはもちろん、自プロジェクト内部でも検索が困難である。さらに、レビューの設定が主催者の主観によりなされるため、主催者によってレビューの議題のレベルが異なる。以上のような問題が、レビュー議事録の再利用を妨げていた。

そこで、レビュー議事録をプロジェクトあるいは部署単位に持たせた文書DBで一元管理し、テーマ・システムなど多角的な検索による表示・参照可能なシステムを開発した。

これにより、レビュー議事録の運用は次のようになる。

表1. レビュー議事録の運用

	従来	システム化後
1.	議事録の作成	標準テーマにそった作成
2.	配布(電子メール・紙)	同左
3.	共用ディレクトリへの保管 印刷物の保管	プロジェクト・部署単位の文書DBに一括保管
4.	人に配いたり、ファイルを探して再利用	システムで、ある条件による検索をこい再利用

SEが求める情報を効果的に再利用できる形で提供するためには、単に提案書、仕様書、基準書などを文書DBで共有するだけでは不十分である。そこで情報間でリンクをはったり、目的に応じて必要な情報を加工した形で自動抽出するなど情報の付加価値化が必要となる。本システムではこれまでの文書DBに加え、システム開発における意思決定の過程の記録であるレビュー議事録を事例化して活用できるシステムを目指した。

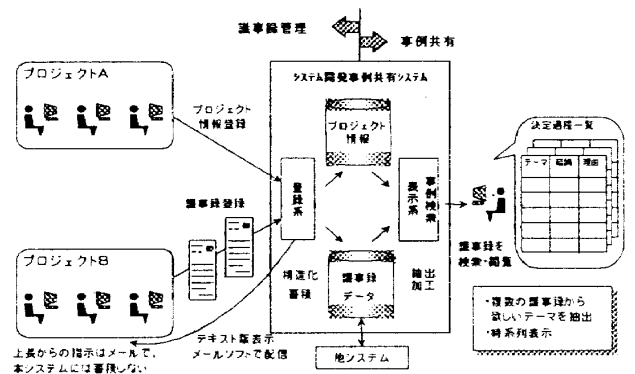


図1. システム概要

本システムでは、レビュー議事録の管理を行う登録系と事例共有を行う事例検索・表示系の二つの機能から構成されている。クライアントではこれらの機能をWebブラウザで利用できるものとした。

登録系機能は、以下の3つの処理を行う

- (1) プロジェクト情報管理

- (2) 議事録の登録・修正・削除
- (3) 議事録を様々なフォーマットで表示
(事例検索・表示系共通)

事例検索・表示系機能では、任意の項目による検索、テーマによる検索を可能とし、テーマ検索の場合は複数のレビュー議事録をまたがって散在している同テーマ部分を抽出し時系列で表示する。

3. システムの機能と特長

一 本システムの開発で工夫した点を3点示す。

(1) テーマ別の時系列表示

一回のレビューでは複数の議題が検討されるが、反面、1つの議題が複数回のレビューにまたがって議論されることもよくある。この場合、何をどう考え、どう決定したのかという点に設計の本質があり、この情報は大変重要である。

そこで、複数の議事録にまたがる場合でも、特定の議題に関する議事内容を抽出し、時系列で表示できるようにした。

■ 検索結果

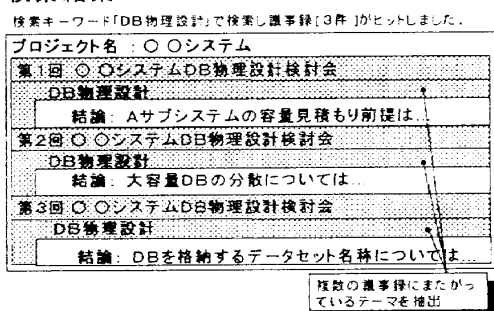


図2. 検索結果表示例

(2) レビューおよび議事録の標準化

システム開発の各開発段階毎に検討すべき標準テーマを設定し、レビューの設定および議事録執筆時に参照・利用できるようにした。標準テーマの設定は、レビューの議題設定時の参考になるだけでなく、その使用により、システム開発時の用語の統一を図り、議事内容の整理・分類ができる。これは、議事録の再利用を促進することにもなる。

(3) プロジェクトの状況把握

標準テーマと登録されたレビュー議事録のテーマを照合することで、標準レビューテーマのうち検討されたもの、未検討のものを区別して表示する。これにより、担当者は今後検討すべき項目を、プロジェクト管理者は、レビュー項目のもれをチェックできる。また、標準レビューテーマは、各設計工程毎に設定しているため、検討状況を大雑把に把握できる。

大項目	小項目	
DB設計	1. データ項目設計 [0]	本設計 レビュー項目
	2. ERモデル検討 [5]	
	3. DB論理設計 [1]	
	4. DB容量設計 [2]	
	5. DB物理設計 [3]	
コード設計	1. コードの析数 [0]	検討済み レビュー項目
	2. コードの属性 [0]	
プロトタイプ	1. 対象範囲の選択 [0]	次回行うべき レビュー項目
	2. 評価 [0]	

図3. 標準レビューテーマ適用実績表示例

3. おわりに

本システムは、9月に適用を開始する予定である。適用後は、フィードバックをかけて改善に努めていくが、特に以下の点を今後の課題と考えている。

(1) XML適用による事例情報活用手段の思索

XMLを適用することで、様々な文書編集・表示、情報管理が可能になり、さらに情報活用する手段が提供できると考えている。また、関連のあるデータを文書中に記述できることから、レビュー議事録から更に、他の範囲の事例文書を利用した情報活用を検討する。

<<参考文献>>

- ・XML/SGMLサロン:XML完全解説,技術評論社
- ・里見 俊弘:ドキュメント管理特集:NIKKEI OPEN SYSTEMS,May.1998